

平成22年度

学校経営計画

(スクールマネジメントプラン)

平成22年4月7日

京都府立嵯峨野高等学校

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「学校力」を向上させ、府民から信頼される学校づくりを行う。</p> <p>すべてにおいて、安全・安心の学校づくりを行う。</p> <p>「Sagano Dynamics」を推進する学校づくりを行う。</p> <div data-bbox="249 736 771 906" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Sagano Dynamics : the way in which things or people behave and react to each other</p> </div>	<p>遅刻防止への取組や自転車の傘差し運転の指導に成果が見られ、概ね落ち着いて規律ある学校生活を送らせることができた。ルールやマナーの向上を図る指導を今後も継続する。</p> <p>重点目標を定めた年間13回の大掃除や、ゴミの分別のために校内のゴミ箱を一新したことなどにより校内美化に成果を上げた。自ら進んで学校を美しくする行動ができる人間を育て、環境意識の向上を図る教育を進める。</p> <p>学習習慣定着月間を設けるなど指導に工夫を重ね「学習のトライアングル」の確立を図るよう指導した。生徒による授業アンケートによると、およそ90%の生徒が授業で学力向上が実感できると答えていることから、授業への期待感が高いことがうかがえる。しかし、家庭学習時間がまだまだ十分確保されているとは言えない。</p> <p>保護者アンケートからは、「Sagano Dynamics」の取組が周知されてきたことがうかがえた。「Sagano Dynamics」の具現化を目指して「学力向上フロンティア校」「SPP」の各種指定事業を推進した。サイエンスレクチャーシリーズに引き続いてアカデミックレクチャーシリーズを始めるなど幅広い、内容の濃い特色ある教育活動を展開できた。ラボの充実など魅力ある教育内容への改革を進める。</p> <p>平成22年度設置の普通科第 類理数系の志願倍率は府内最高となり、京都こすもす科を含めて、本校への目的意識の高い生徒の志願に結びつけることができた。</p> <p>難関大学等への進学者数も増加した。生徒一人一人の課題を明確にして、教職員の一致した指導体制が生徒の学力向上につながったと言える。また2学年の朝学習の取組など、生徒の実態に応じたこまめな取組を積み重ねた。難関国公立大学をはじめとする第一志望実現のために、1年次より志望校への進学意欲の向上をはかるような取組をあらゆる教育活動を通じて進めて行く必要がある。</p>	<p>正しいルール・マナーの徹底と、基本的な生活習慣の確立</p> <p>校内環境美化の徹底と、環境改善の意識定着・実践</p> <p>学習のトライアングルの確立と、質の高い学力の定着・向上</p> <p>計画的な進路指導の徹底と、生徒の第一希望進路の実現</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織とその運営	学校評価システムを計画的・機能的に運用し、教育の質の確実な向上を図る。	生徒による授業評価アンケート及び学校経営計画中間評価、最終評価を計画的に行うとともに速やかに結果を公表する。		
		学校評議員や保護者などによる外部評価を充実させ学校改革に生かす。		
	災害・防犯等学校の危機管理について、日頃から対応できるよう教職員・生徒の共通理解を深める。	防災・防犯等で更に工夫すべきことを検討し、安心・安全の観点から迅速な対応を行う。		
		日頃から危機管理意識を高め、学校施設設備等の点検を常時行う。		
		体育系部活動の生徒代表に対してAED講習を実施する。		
	学校経営方針を実現するため、一致した指導と連携した組織運営を行う。	学校経営計画の内容を十分認識し、関係分掌と連携を保ち、協力し合い、一致した指導を行う。		
		学年部をはじめ、関連分掌及び各教科との連携に努め生徒個々の進路選択を支援する。		
		指導の方向性を一致させるために各分掌は情報を収集し、部内での伝達に努める。		
	個人情報保護の観点も踏まえ、セキュリティを確保しつつ効果的な校務管理体制を推進する。	本校独自の校務システムを円滑かつ確実に運用する。		
		成績等の生徒情報に関して、十分な注意をもって取り扱う。		
学習と進路指導	授業を中心に据えながら、計画的な学習習慣の確立により学力の定着を図る。	自宅学習チェックシートを定期的に生徒に書かせ、指導に役立てる。		
		授業のベル開始を励行する。		
		50分の授業を大切にする姿勢を養う。		
		課題提出を徹底させる。そのために入学当初に徹底した指導を行う。		
		自律的学習習慣の確立や日々の学習の積み重ねが進路希望達成につながることを理解させる。		
		授業を中心とした学習展開をさせるために、予習・復習を徹底させる。		
		1年からの学習習慣が進路実現に繋がることを認識させる。		
		授業、補習において活用可能な入試関連教材の整備を進める。		
	スタディ-サポート、実力テスト結果の分析に寄与するデータの整理に努める。			
	生徒一人一人が高い進路目標を設定しその実現に向けて主体的・発展的な学習を促し、学力の向上を図る。	生徒・保護者との面談を充実させ、前向きに挑戦する姿勢を育てる。		
		教材内容を再考し、発展的な学習内容も多く取り入れて生徒の進路希望達成を図る。		
実力テストを計画的に受験させ、より高い目標を目指して努力し、希望の実現につなげる				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習と進路指導(続き)	生徒一人一人が高い進路目標を設定しその実現に向けて主体的・発展的な学習を促し、学力の向上を図る。(続き)	平常、長期休業中の補習では、生徒の進路希望、学力層に応じた講座を開講する。		
		生徒一人一人の学力の正確な把握に努め、進路検討会等を通して、指導方針の共通理解を図る。		
		実力テスト、模擬試験の事後の活用方法の改善に努める。		
	自らの生き方や進路について主体的に考える力を育成するとともに、自己の進路適性を理解させる。	ロングホームルームやアッセンブリー等を通して生徒が情報を収集し、活用する態度を養うとともに、自らの進路決定能力、情報選択能力を養う。		
		大学、学部学科、職業研究を主体的に進める機会を設け、自己の進路を見つめさせる。		
		進路学習を計画的に実施し、生徒のキャリア発達を支援し、多様な選択肢から自己の意志と責任において進路を主体的に選択することができるよう援助する。		
		進路ガイダンス機能を充実させ、選択基準としての職業観を確立することの大切さを理解させる。		
	類・系統の特色に応じた教育内容の充実・推進と類・系統間の連携を図る。	類、系統毎に生徒の志望動向の把握に努め、教育課程の改善、補習の講座展開、模試選択受験指導に役立てる。		
		アカデミック・ラボの開講講座・内容を一新して実施し、適切に運営できるように教育推進部が環境を整える。		
		サイエンス・ラボの実施時期の変更に伴い今年度の成果を検証し、2期目の運営に活かしていく。		
		高大連携(S P P含む)や高企連携をラボやレクチャーシリーズ、専門科目と関連させて一層の充実を図る。		
		高大連携、高企連携において教科担当者との連携を密にし運用の環境を整える。		
		1年のサマーセミナー(フィールドワーク・英語集中合宿)を企画・計画し実施する。		
教科等担当者会議を実施する。担任、教科担当、各分掌との連携を密にして、開催の実施時期や問題提起の方法を工夫して活発な意見交換の場を作る。				
普通科における総合的な学習を円滑に進め、特色ある教育活動を展開する。				
新教育課程の編成に向けて検討を行う。	平成24年度実施の新教育課程のカリキュラム検討を行い、案を定める。			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
	新教育課程の編成に向けて検討を行う。(続き)	教育課程等検討会議で教育課程を不断に検証し、生徒の学力実態及び、大学入試改革に対応できるような必要な見直しをする。		
生活指導と特別活動	基本的生活習慣を確立させ、自主的かつ規律ある集団の育成し、個性の伸長に努める。	あらゆる場面で挨拶・言葉遣いの指導を行う。		
		遅刻指導を毎日行い、遅刻者の減少に努め、時間を守る態度を育成する。		
		交通ルールの遵守を徹底し、傘さし運転や信号無視を防止するなど、通学マナーの向上に努める。		
		学校における規則を守る集団を育てる。		
		反社会的問題行動・薬物・エイズ・煙草等の保健学習を行う。		
		ホームルームが相互に高め合う集団となるよう一致した生活指導に取り組む。		
	心身ともに健康に過ごす環境づくりを行い、自己管理能力を身につけさせる。	職員室等への入室マナー指導をさらに徹底する。		
		部活動への加入を奨励し、学習との両立を図らせる。		
		生徒の実態に応じた対応を行う。		
		自己理解を深めさせ、将来設計能力を培うと共に、意志決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応する姿勢を身につけさせる。		
	教育相談会議を機能的に運営し、共通認識をする。			
環境美化	環境美化活動により、より良い学習環境づくりと施設設備の維持管理に努める。	ゴミの分別を徹底するとともに、ゴミの量の削減に努める。		
		大掃除毎に重点項目を示し、清掃活動を実施する。		
		日常の清掃活動で、各自責任を持って役割を果たさせ、公共の場を汚さない気持ちを育て、学習の環境作りに努めさせる。		
		教員は担当区域の清掃指導・監督に当たり美化の保全に努める。		
		節電に努め、ホームルーム教室の消灯を意識させる。		
		環境問題について、講演をはじめとして他分掌と連携し、意識の向上に努める。		
		校舎を取りまく緑豊かな自然の中、校舎内外に配慮し、全体としての学習環境の向上に努める。		
メディアリテラシー	情報の選別能力と発信能力の向上を図る。	正確な進路情報を精選して伝達し、生徒の情報活用能力を育む。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
メディアリテラシー (続き)	学習・情報センターとしての学校図書館機能を充実する。	図書館の積極的利用を勧め、読書習慣の形成に努める。		
		小論文、面接指導に関して進路指導部と図書部とが連携し、生徒の指導に当たる。		
		図書資料等を収集し、情報を提供しながら生徒の学習意欲を高め、豊かな情緒を育む。		
家庭・地域社会との連携と広報活動	普通科及び京都こすもす科に関する広報活動を充実し、学ぶ意欲をもった生徒の応募につなげる。	各説明会における「本校の進路指導」の内容を充実させる。		
		本校における学科説明会等を実施する。中学校や外部教育機関などでの説明会の実施や、中学校や外部教育機関等の関係機関の訪問を行う。		
		説明会の内容や実施方法を改善・充実させる。		
		各系統の取組や特色をアピールできるように校内での種々の取組をまとめ、各種説明会やホームページで積極的に取り上げる。		
		学科案内やアカデミック・レター、サイエンス・レター、卒業生の活躍記事などの広報物を発行する。		
		ホームページなどを利用して、説明会の案内や学校紹介に努める。		
	家庭・地域社会との連携を図り、開かれた学校づくりの取組を行う。	メール配信やホームページにおける学年ページで情報提供を進める。		
		保護者説明会の内容を充実させる。		
		P T A と連携し、お知らせメールを活用してきめ細かい情報の発信に努める。		
		嵯峨野だよりの内容を充実させる。		
教職員の資質向上	指導力向上のため、研修の充実を図る。	進路指導の観点から校内研修の内容をよりよいものにする。		
		外部研修の機会を告知し、より多くの参加を促し、指導力の向上を図る。		
		様々な場面に応じた進路指導方法(経験)の蓄積と共有化を進める。		
		分掌研修を内容・実施時期を見直し、より時宜にかなったものとする。		